

金沢大学海外英語研修の現状と課題  
—学生によるアンケート評価の結果から  
Surveying Students' Evaluations of Overseas Short-Term English  
Programs

結城正美  
Yuki, Masami

Abstract

Kanazawa University introduces students to eight certified overseas short-term English programs, which have increasingly attracted students' interests. This paper intends to survey three of those programs—those at the University of Washington in Seattle, the University of Hawai'i in Honolulu, and Yukon College in Whitehorse—based on the results of student evaluations of each program. The results clearly show the individual strengths of each program—a friendly class atmosphere at UW, a well-designed interactive exchange with full-time students at UH, and an outstanding homestay program at YC—and such strengths, in turn, play an important role in enhancing students' experience during their stay. This finding implies a correlation between the special features of a program and students' experience of that program; in other words, it is crucial to choose a program that fits each student's goal as well as personal character in order to maximize his/her experience during the program.

1. はじめに

金沢大学には、本学の英語の単位認定の対象となっている海外英語研修<sup>1</sup>が8件（アメリカ合衆国3件、イギリス2件、オーストラリア2件、カナダ1件）ある。海外英語研修の単位認定は、学生の異文化理解ならびに本学交流協定校への派遣留学の促進の一環として開始されたところがあり、実際、語学研修が契機となって長期の派遣留学を目指すようになった学生もいる。ここ数年のあいだに研修先の開拓が進み、受講者数も増加傾向にある。参加した学生の感想も上々だ。しかし、教員を前にして述べられた〈感想〉と学生自身による研修の〈評価〉は必ずしも同じではないかもしれない。海外英語研修が軌道に乗り始めたこのあたりで、研修の運営について点検をおこなう必要があるのではないかと考え、

<sup>1</sup> 全学の学生を対象にしたもの指す。したがって、ある特定の学類の学生にだけ開かれている研修はここには含めない。

私が担当している三つの研修（ワシントン大学研修、ハワイ大学研修、ユーコンカレッジ研修）を対象にアンケート評価を実施した。<sup>2</sup> その結果をもとに研修の点検をおこない、海外英語研修のさらなる発展に役立てたい。

## 2. 研修の概要

まずは、研修そのものについて若干の説明をしておく必要があるだろう。本稿で取り上げる三つの研修の概要を以下に整理する。

	UW (ワシントン大学)	UH (ハワイ大学)	YC (ユーコンカレッジ)
場所	ワシントン州シアトル (アメリカ合衆国)	ハワイ州ホノルル (アメリカ合衆国)	ユーコン準州ホワイトホー ス (カナダ)
人口	約 60 万	約 90 万	約 2.7 万
研修期間 (2012 年度)	8月 6 日～24 日と 8月 26 日～9月 13 日から 選択	8月 6 日～24 日	9月 8 日～9月 28 日
研修形態	一般参加型	一般参加型	金沢大学用特別プログラム
クラス編成	習熟度別クラス	習熟度別クラス	金大生用の 1 クラス
研修内容	文化体験型* とアカデミックスキル重視型から選択	文化体験型	文化・アウトドア体験型
滞在形態	ホームステイか寮	ホームステイ	ホームステイ
単位認定開始年	2007 年度	2009 年度	2012 年度

\* 文化体験型の研修とは、教室での英語授業に加えてその土地の文化を学ぶ体験学習 (UW であればシアトル名所探訪、UH であればフラ体験など) を提供しているプログラムを指す。YC の場合は、先住民文化に関するワークショップとカヌーやオーラロツアーなどのアウトドア体験が研修に組み込まれている。

三つの研修のうち、ワシントン大学(以下 UW と略記)とハワイ大学(以下 UH と略記)には類似点が少なくない。まず、二校ともに都市部にあり、一般参加型の研修なので他国・他地域からの受講生とともに学ぶ環境にある。さらに、両研修とも、研修初日におこなわれるプレイスメントテストの結果にもとづき習熟度別にクラスが編成される。

UW と UH に共通するこれら三つの点は、ユーコンカレッジ(以下 YC と略記)には該当

<sup>2</sup> アンケートの実施は、UW と UH 研修参加者には、2012 年 9 月 27 日の事後研修インタビュー終了後に用紙を配布し、その場で回収した。YC 研修参加者に関しては、インタビュー対象者 7 名には 2012 年 10 月 16 日のインタビュー後に用紙を渡してその場で回収し、それ以外の参加者(英語以外の単位認定科目として受講している者)には電子メールで協力を依頼した。

しない。YC のあるホワイトホースはユーコン準州最大の町であるとはいえる、都市型娯楽施設の少ない小さな町である。この場所の魅力はむしろ雄大な自然にあり、非都市型のライフスタイルを求めて移住する人も少なくない。都市であるか否かということのほかに、YC だけが金沢大学生用の特別プログラムであることも他の二校との大きな相違点である。金沢大学の研修参加者（定員 15 名、最少催行人数 8 名）は三週間の研修中、ホームステイでの時間を除いて始終行動をともにし、他国・他地域の学生と机を並べることはない。このような特別プログラムには利点と欠点の双方があると考えられる。後でアンケート結果を分析する際に詳しく論じたいが、利点としては金大生の学力や性格にあった授業を特別注文できるということ、欠点としては他国・他地域の受講生との接触がほとんど望めないという点が挙げられる。以上、アンケート評価の対象である三つの研修のうち、UW と UH には共通点が少なくなく、YC は他の二つとはさまざまな点で異なるプログラムであることを確認しておきたい。

アンケートは研修参加者に研修後に配布し回答の協力を依頼した。研修参加人数と回答者数は以下の表のとおりである。

	UW	UH	YC
研修参加人数	14	7	15
アンケート回答者数	14	7	10

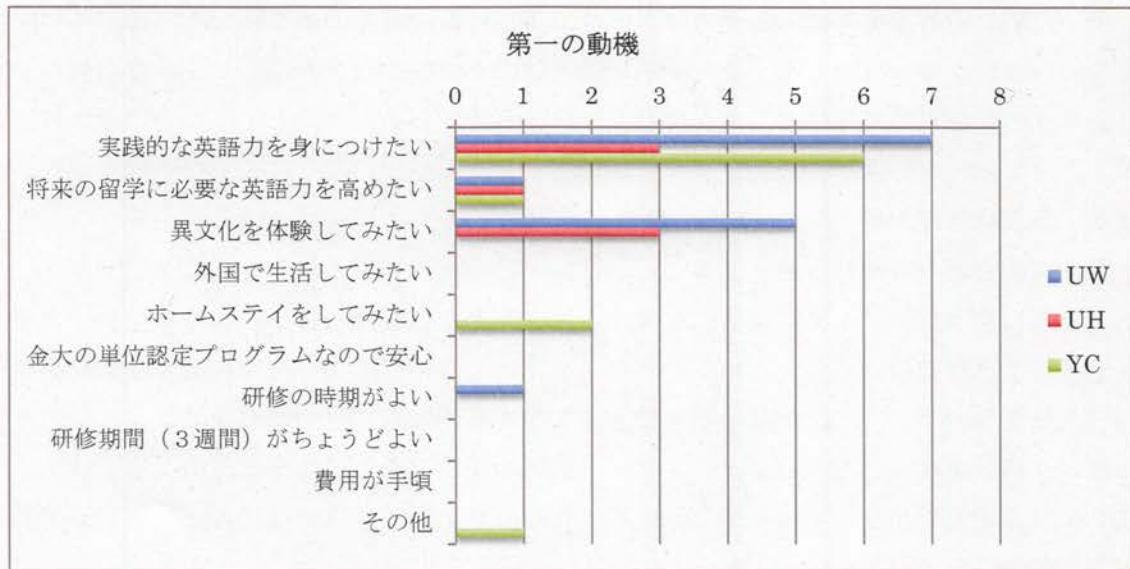
UW と UH の研修参加者が全員アンケートに回答したのに対し、YC では研修参加者の三分の一が未回答であった。これには理由がある。UW と UH の研修は金沢大学の英語の単位として認定されるため、事前・事後研修を課し、事後研修の一環としてアンケートに回答してもらったのに対し、YC の研修は学生の所属学類によっては英語ではなく海外異文化体験の単位として認定されるケースがあり、その場合は事前・事後研修が課されないためアンケート回答も任意協力というかたちになった。YC の研修に関して全員から回答が得られなかつたのはそのような事情による。

### 3. アンケート評価の結果と分析

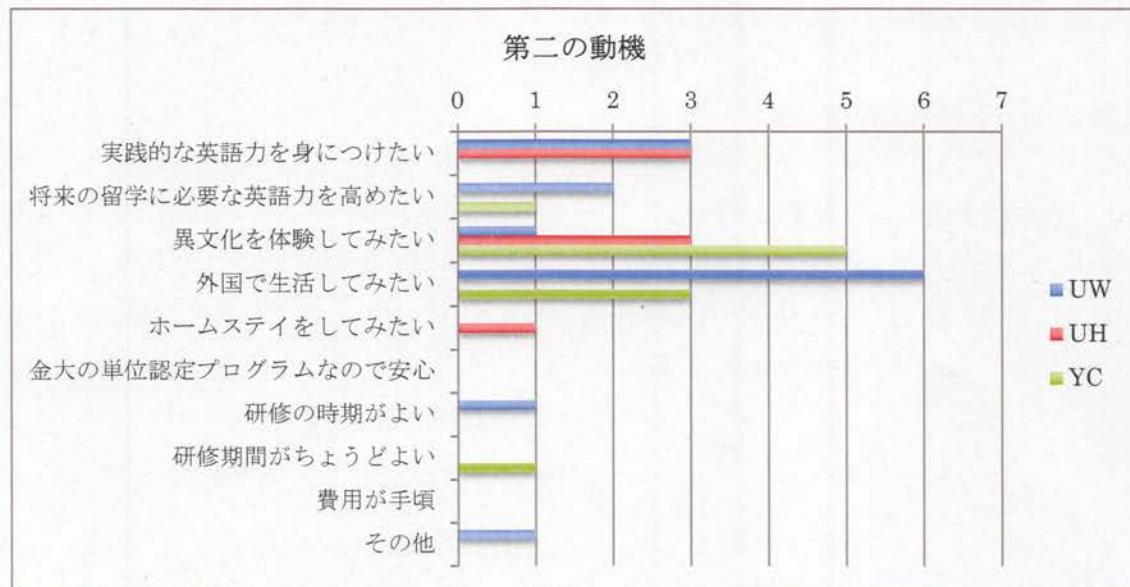
#### 3-1. 研修に参加しようと思った動機

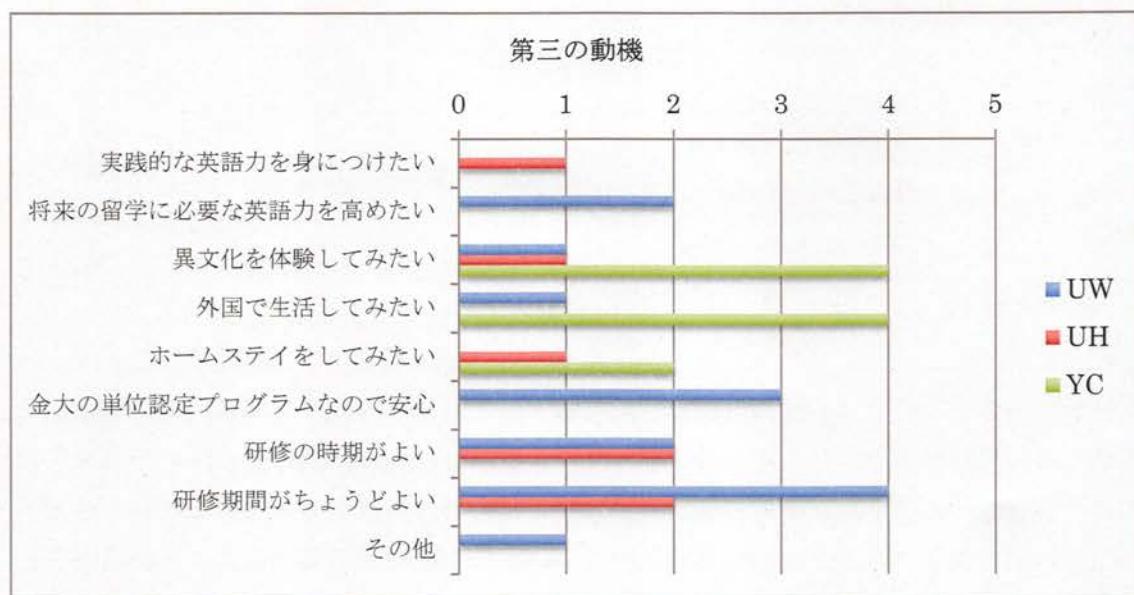
それでは研修のアンケート評価の結果をみていくことにしよう。

まず、研修に参加しようと思った動機について訊ねた。第一、第二、第三の動機を八つの選択肢から選んでもらった結果、「実践的な英語力を身につけたい」という回答が最も多かった。



UW と UH の研修参加者の回答には「実践的な英語力を身につけたい」と「異文化を体験してみたい」という回答が多いが、YC の場合は回答者の二割が研修参加の動機として「ホームステイ」を挙げている点で他の二校とは異なる。第二、第三の動機との合計をみても、ホームステイを研修参加の動機とする傾向は YC の研修参加者に顕著である。これには4月におこなった金沢大学でのオリエンテーションにおける説明が影響していると考えられる。というのも、ユーコンでは家族や友人と過ごす時間が重視され、残業で帰宅が遅くなるという生活は稀なので、授業後に帰宅したらホストファミリーと過ごす時間を楽しめるであろうということを学生に話したからだ。ホームステイが参加動機として挙げられているという事実には、学生が慣れ親しんだ都市型の価値観とは異なるライフスタイルに高い関心をもっていることが仄めかされているといえる。

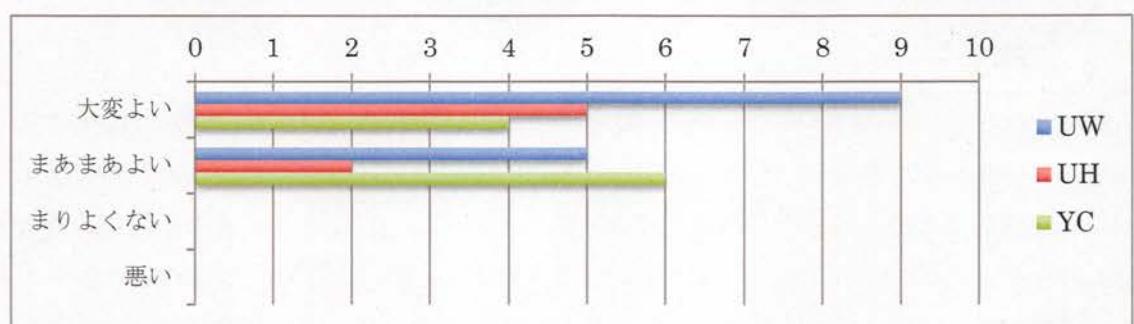




全体的にみて参加動機として多いのは、「実践的な英語力を身につけたい」、「異文化を体験してみたい」、「外国で生活してみたい」の三つである。ただし、研修先によって差異があり、UW および YC の研修参加者の多くが「外国で生活してみたい」という項目を挙げているのに対し、UH の研修参加者からはそのような回答はなかった。ハワイでは人種構成において白人系に次ぐ地位を日系とフィリピン系が争っており、また日本人観光客も多いので、ハワイでの研修は「外国で生活する」というイメージと結びつきにくいのかもしれない。

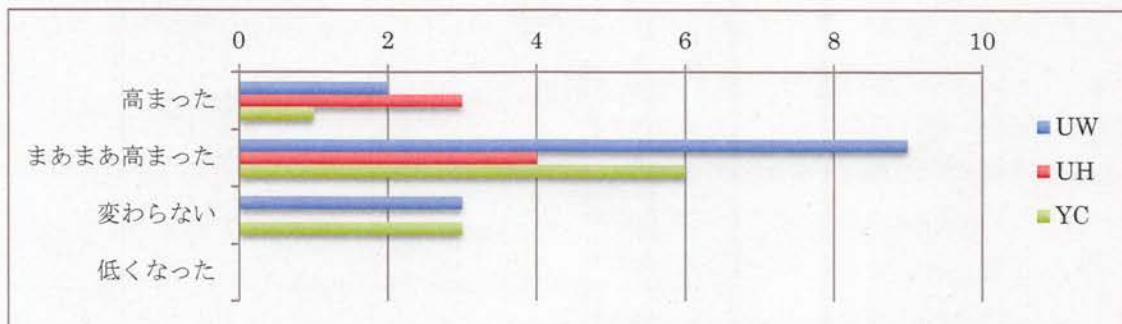
### 3-2. 研修に関する評価

三つの研修いずれにおいても、研修に関する学生の評価は肯定的であった。



YC の研修では「大変よい」よりも「まあまあよい」を選んだ人数が上回っており、UW, UH についての評価よりも若干低いようにみえるが、研修の良し悪しをめぐる判断は学生の研修のとらえかたに左右されるところが大きいので、これをもって YC の研修が他に劣るということにはならない。学生が研修をどのようにとらえているかという点については、「3-5. 研修先のよかつた点」のアンケート結果を参考にして考察することとしたい。

### 3-3. 研修参加による英語力の向上



三つの研修の中では UH の研修が最も英語力向上に役立ったと判断されているように見えるが、有意な相違があるようには思えない。強いていえば、UW と UH の研修参加者のほうが YC の参加者に比べて、英語力が高まったという実感をもっていることがわかる。そのような実感がもたらされたのは、UW と UH で習熟度別にクラスが編成されており、学生が自分の英語力にあった授業が受けられたためだと考えられる。YC の研修は金大生 15 人の 1 クラスで授業がおこなわれ、また 2012 年度は研修初年度ということもあって受講生の英語力が把握しきれず比較的容易な内容の授業であったため、他の二校に比べると英語力向上に関する学生の実感は弱かったのかもしれない。

### 3-4. 滞在形態と評価



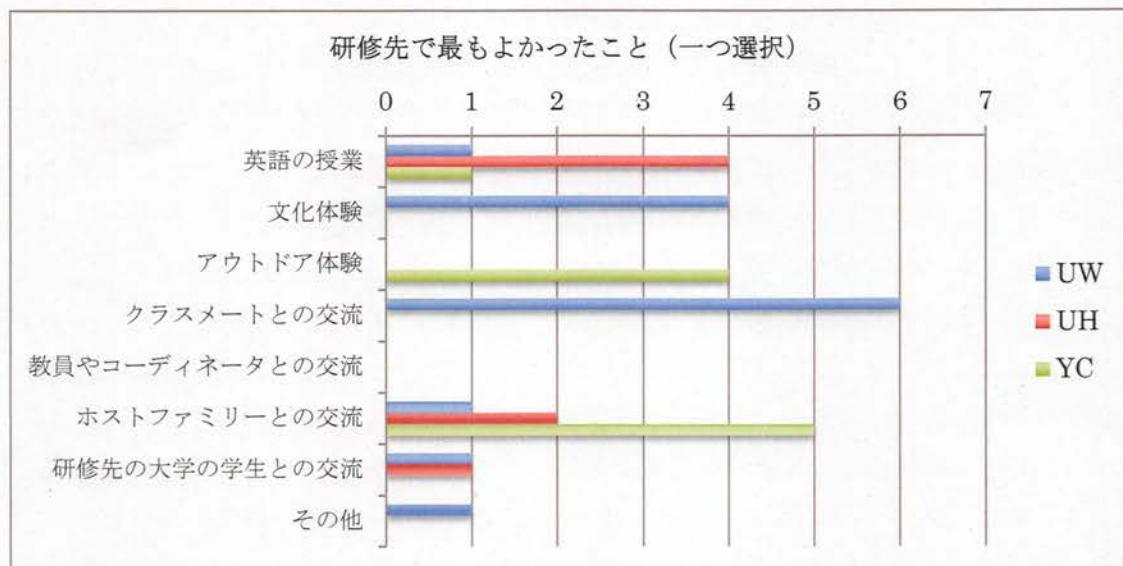
滞在形態（ほとんどがホームステイ）については、いずれの研修においても評価は肯定的だが、一部の UW 参加者からは不満が示された。UW 参加者の滞在形態はホームステイ 12 名、寮滞在 2 名であり、ホームステイを経験した学生から、ホストが常に不在だったために家族との交流がなかったという不満が吐露された。UW、UH の研修ではホームステイの斡旋は業者がおこなっており、それぞれの大学のウェブサイトに記載されている業者一覧を参考にして、研修受講者に各自で業者に連絡をとりホストを紹介してもらうようしている。これは事前研修の一環として実施しており、問題が生じたときだけ私が介入するという方針をとっている。学生には、自分の要望が聞き入れられるよう業者と交渉することを見越して、できるだけ早くホームステイの申請をするよう言つており、実際早く申請した学生ほどホームステイでよい経験が得られたように見受けられる。逆に言えば、ホームステイ申請を先延ばしにしていた学生ほど、自分の希望に必ずしも添わない家庭に滞

在することになり不満をもたらす傾向がみられる。

なお、YC 参加者のホームステイ満足度の高さは、ホストファミリーと過ごす時間が充実していた証左であると考えられる。前述したように、ユーコンでは一般的に家族や友人と過ごす時間が重視され、残業で帰宅が遅くなるということは稀だ。学生は授業から帰宅するとホストファミリーとともに夕食の準備をしながら会話するなどして、ともに過ごす時間を楽しんでいたようである。滞在の評価の理由をみると、ホストファミリーが「優しい」「親切」と答えた学生がほとんどであった。「一日中英語に触れられてよかったです」とか「いろいろなところに連れていってくれた」という回答も多く、ホストファミリーと一緒に過ごす時間が充実していたことがうかがえる。

### 3-5. 研修先のよかつた点

本稿で検討している三つの海外英語研修は、研修内容の点で二つに大別される。ひとつは教室での英語学習と現地の文化体験を組み合わせた「文化体験型」、もうひとつは留学に必要な英語力の養成を目指す「アカデミックスキル重視型」である。UW 研修参加者のうちの 1 名が「アカデミックスキル重視型」プログラムを受講した以外は、全員が「文化体験型」(YC の場合は「文化・アウトドア体験型」)のプログラムに参加した。研修先でよかつたことを、最もよかつたことから順に八つの選択肢から選んでもらった結果、「最もよかつたこと」は次のような結果であった。

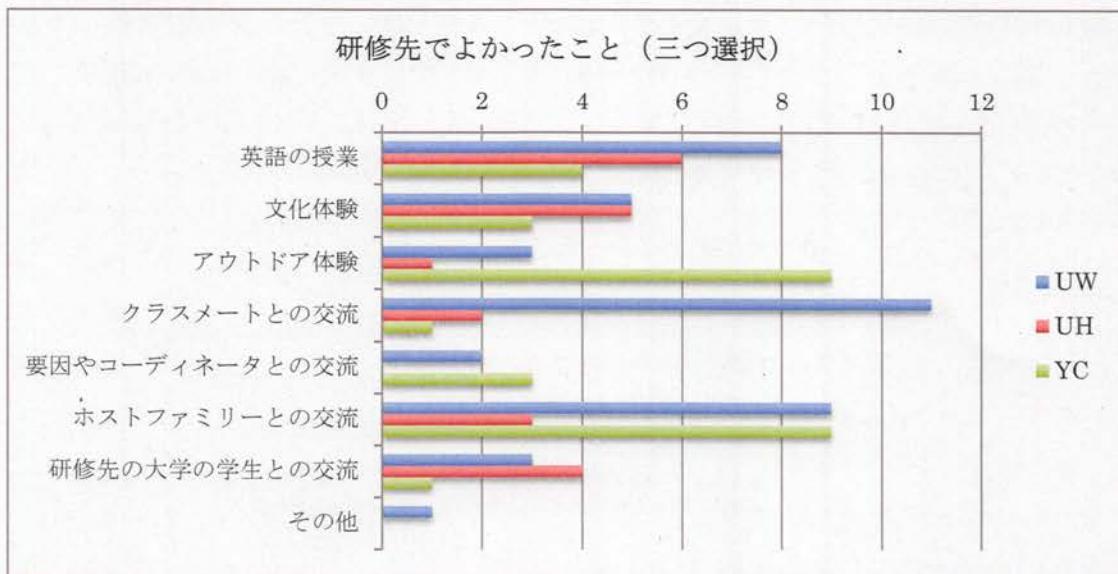


研修先によって「最もよかつたこと」にかなりの相違がある。まず、UW 研修者の 4 割余が「最もよかつたこと」として挙げている「クラスメートとの交流」は、他の二つの研修参加者から選択されていないところをみると、UW 研修に特有の傾向であるといえる。この点は、前述の「3-2. 研修プログラムの評価」とも関連し、「クラスメートと仲良くなれた」ことや、「他大学からの参加者と交流できた」ことがプログラムの評価につながっていることが学生のコメントからうかがえる。なお、この場合のクラスメートとは日本の他

の大学からの参加者を指す場合が多いことを付け加えておく。事後研修の一環として実施したインテビューで明らかになったところによれば、UW の研修参加者のほとんどは日本の大学生であり、したがって授業外の時間に日本語を話すこと多々あったが、学生たちは他大学の参加者からよい刺戟を受けたということだ。UH の研修も、一部の上級クラスを除けばクラスの大半が日本人学生が占める状況にあり、UW の場合と大して違わないようみえるが、クラスメートとの交流は活発ではなかった。事後研修のインテビューで訊いたところ、UH の研修には複数の大学から団体で学生が参加しており、授業の内外で同じ大学の学生同士でグループを作っていたという。このことが UH においてクラスメートとの交流が UW ほど活発でなかった原因のひとつであると考えられる。

YC の研修の場合は、前述したように学生が高く評価したホストファミリーとの交流、そしてユーコンの大自然に触れるカヌー体験やオーロラツアなどのアウトドア体験が、研修の最もよかったですとして挙げられおり、他の研修とは異なるユーコンカラーが学生にとって魅力あるものであったことが証明されたといえる。

研修先でよかったです三つ選んでもらった結果は以下のとおりである。

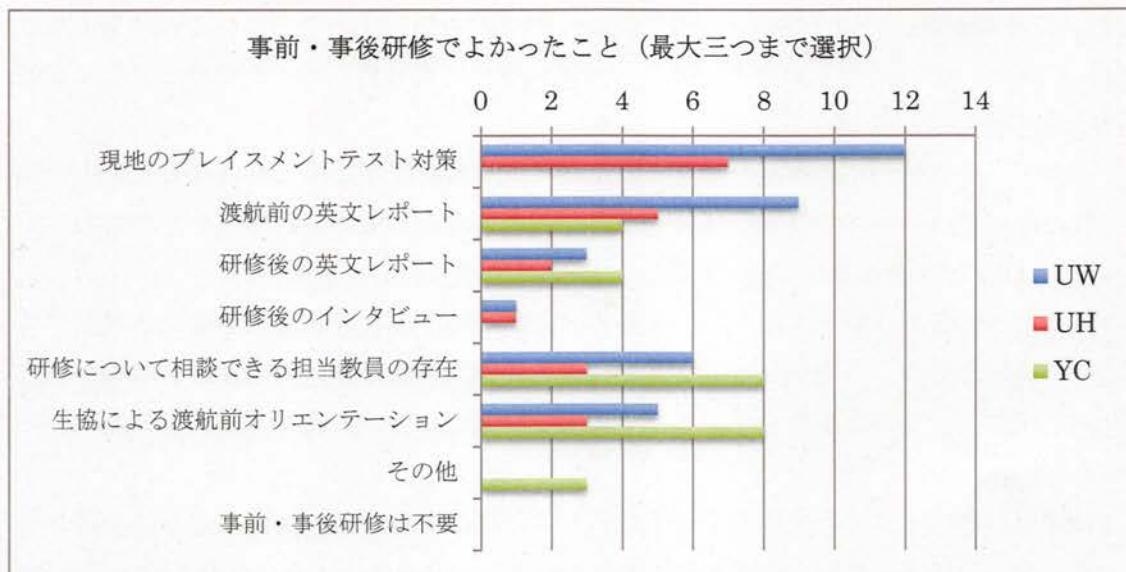


UH の研修参加者の 6 割が「研修先の大学の学生との交流」を選んでいることは注目に値する。UH での研修では、研修受講者 2 名につきハワイ大学の学生 1 名が入って授業で出されたトピックについて話し合う「インターチェンジ」という時間が週に二度ほどあり、それが参加者にはかなり好評であった。研修先の大学の学生との交流については、とくに YC の研修参加者からもっと交流する機会がほしかったという要望が出されているので、UH のインターチェンジを参考にして来年度以降のプログラムに組み込むことを検討したい。

### 3-6. 金沢大学での事前・事後研修について

現地での研修の前後に金沢大学でおこなった事前・事後研修について、よかったです最

大三つまで八つの選択肢から選んでもらったところ、以下のような結果となった。



UW と UH の研修は、一般参加型であるため研修初日にプレイスメントテストがあり、その結果にもとづきクラスが編成される。三週間の研修でどのレベルの授業が受けられるかは、ひとえに初日のプレイスメントテストの結果にかかっているので、事前研修ではプレイスメントテスト対策として英語によるインタビューの練習をおこなった。これまでのプレイスメントテストで出されたような質問を中心に、学生一人につき 3、4 分のインタビューをおこない、その後、受け答えや発音等に関して指導をおこなった。少なくとも各受講者に対して事前に二度インタビューの練習をしたが、それが現地の研修への準備として役立ったと学生に評価されたことがわかる。同じく事前研修の一環として課した英文レポートも評価が高かった。このレポートでは、研修に参加する目的を述べ、研修先で何をしたいのか、週末はどのように過ごしたいのか（これについて具体的に書くためには現地の調査が必要になる）、といった事柄について 800 語程度の英語で書くことを求めたのだが、レポートに取り組む過程がそのまま研修に向けた準備になったものと思われる。なお、YC での研修にはプレイスメントテストがないので、事前インタビューは実施しなかった。

海外渡航に関する基本的な情報については、生協主催のオリエンテーションに参加するよう伝え、ほとんどの研修参加者がオリエンテーションに出席した。このオリエンテーションの評価も高かった。

YC の研修参加者の回答にある「その他」（3 件）の内訳は、ジャック・ロンドンの小説 *Call of the Wild*（簡易版）や先住民のビーズ文化についての資料の読解といった現地文化に関する英文の読解（2 件）と事後報告会（1 件）である。

#### 4. おわりに

研修のアンケート評価の最後で「この研修プログラムを他の学生に薦めますか」という問うたところ、UW、UH、YC いずれの研修においても全員が「薦める」と回答した。研

修先に日本人学生が多くて失望したとか、授業のレベルが自分に合っていなかったなど、何らかの不満を抱いていた学生が少なくなかったことを知っていたので、この結果は私自身が予想していなかったものであった。なぜ他の学生に薦めたいか、その理由として挙げられたものをいくつか紹介しよう。

- 研修やホームステイの申込みなどいろいろなことを自分でやらなければならず、いい経験になったし、プログラムを通じていろいろな人とのつながりができた。自信がついた。(UW 研修参加者、2年、男)
- 海外での生活を体験してみたい、海外の大学に行ってみたいと思う学生には良いプログラムだと思う。時期が日本の夏休みなので日本人学生が多いのは仕方がないが、彼らと話すことでまた刺激を受けるので決して無駄ではない。(UW 研修参加者、2年、女)
- 知識だけのアメリカと実際のアメリカはかなり印象が違った。英語がどうにか話せることも自信になったし、日本人とは考え方の異なる友達もできる。貴重な経験だった。(UW 研修参加者、3年、男)
- スピーキング中心の授業で、英語でのディスカッションやプレゼンなどをしました。UH の学生と話す機会も多くあったので、スピーキング力を上げたい人にはとくに向いていると思う。(UH 研修参加者、2年、女)
- さまざまな国や大学から参加できるプログラムに参加し、ホームステイをするのが、短期間で英語力を伸ばす最も効率的な方法だと思います。ハワイの文化を体験できる機会もたくさんあるので、とても充実した3週間を過ごせると思います。(UH 研修参加者、3年、女)
- ホワイトホースは小さな町ですが、その分勉強に集中できる。ホストファミリー制度が本当に良かった。小さな町なので自分で歩き回り、コミュニティを広げることは大いに可能だったと今では思う。ユーコンの自然に魅了されて滞在している日本人の方々にも会った。日本では味わえないすばらしい環境のなかでぜひ英語を学んでほしい。(YC 研修参加者、1年、女)
- ユーコンは大自然のきれいなところで、人がとても優しく、日本ではすることのできない経験をたくさんさせていただき、大きく自分の考え方を変える研修となりました。勉強だけでは学べないことを学べる良いプログラムだと思います。(YC 研修参加者、3年、女)

学生たちの「推薦の言葉」に各プログラムの特徴が明確にうかがえる。紋切り型の表現になるが、どの研修プログラムにも利点と欠点があり、一概にどれが良いかという判断はできない。ただ、アンケート評価から明らかになったように、三週間の研修から最大限の効果をひき出すためには、研修参加の関心や目的に応じて研修を選び、3、4ヶ月かけて入念に準備することが重要である。これを徹底するかたちで事前研修をデザインし、海外英語研修の一層の充実を目指したい。